



令和5年8月30日(水)

〒385-0053 佐久市野沢335-1 Tel. 62-0360 野沢中学校長:塚田 直道
E-mail:nozawachu@sakushi.ed.jp Fax. 62-2401 発行責任者:田中 章子(教頭)

二期始業式

全校の皆さん、おはようございます。

今日から二期を始めます。夏休み中、みなさんが夏休みの過ごし方を意識して生活したことで、大きな事故やけが、病気がなく過ごせたことが何よりよかったです。普段、学校に来ているような生活リズムで生活できました。計画的に学習を進めることができました。一ああすればよかった「こうすればよかった」と後悔している人は、いませんか。みなさん、時は金なりという言葉を聞いていますか。意味は、「時間はお金と同じ貴重なものなので、浪費することなく、有意義に使うことが大切である」という意味です。この「時は金なり」という言葉は、日本に伝わってきた言葉を日本語に訳したものです。もともと言葉は「Time is money(タイムイズマネー)」。アメリカ人のベンジャミン・フランクリンの言葉です。ベンジャミン・フランクリンはどんな人物か。彼は、政治家、外交官、著述家、物理学者、気象学者、印刷業で成功を収めた人と、様々な顔を持っています。その中でも有名なのは、アメリカの100ドル紙幣に肖像が描かれていることです。アメリカ建国の父の一人として讃えられているのです。また、風を用いた実験で、雷が電気であることを明らかにしたことも知られている人です。

彼が「Time is money」というフレーズで意図していたのは、私たちが使う「時は金なり」とは少しニュアンスが違っています。彼は、ビジネスにおいて若い人たちにむけてアドバイスとして「Time is money(タイムイズマネー)」を使っていた。ここには「機会損失」という考えがあります。「機会損失」とは、わかりやすく言うと「稼げないままに、儲け損ない」という意味です。つまり、稼げるはずだった機会を失い、損かかった分の資金を失うという、お金のもの損失(失う)ことを指しています。

例えば、一日を娯楽だけで過ごしたAさんと、仕事に集中して、一日Bさんがして仮定しました。Aさんは映画を見たり、食事をしたりとして五千円程使ったとします。一方Bさんは、一万円稼いだとします。普通の考え方であれば、Aさんは、五千円を失ったと考えるでしょう。ところが、ベンジャミン・フランクリンの考え方は少し違っています。娯楽に使った人は、五千円だけ損したのではなく、収入になるはずだった一万円も逃してしまっているのです。一万五千円を失ったと考えるのです。

みなさんの生活で考えれば、四時間昼寝をした人は、四時間を失っただけでなく、四時間学習することで身につけることができたと失ったという点に、なるでいいです。

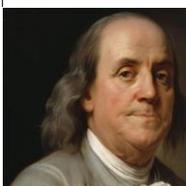
時間は限られています。そして、自分の思いや状態とは関係なく過ぎていきます。だから、自分がその時間をどう使うかなのだと思います。一時間、二時間を成果Oにするか、一時間に等しい成果とするか、二時間に等しい成果とするか。それは自分次第ですね。

私は、時間の使い方が上手ではありません。限られた時間を有効に使えているように思いますが、改めて思います。そして、その努力を使えるようにしたいと思っています。

最後に、「時は金なり」の類義語としてこんな言葉があります。

「少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず」意味は、「若い時期は短いに学問は完成し難い、わずかな時間も無駄にしてはならない」という意味です。

これで話を終わります。最後まで聴いてくれてありがとうございます。学校長



二期始業式の代表発表

二期を終え、二期が始まりました。二期は私にとって、挑戦の二期といった不安なことがありました。デモタさん友達が出てきて、授業にもついていけるようになってきて、とても中学校生活が楽しいです。

二期では、二つの挑戦がありました。

一つ目は勉強への取り組みの挑戦です。一学期の間テスト、期末テストでは点数結果があまりよくありませんでした。自分で勉強の取り組み方を考えたり、集中して勉強しても、うまくいきませんでした。だから、二期のテストでは勉強時間を増やし、取り組み方を工夫してテストに挑戦していきたいです。

二つ目は、いろいろな行事への挑戦です。私は行事が好きではありません。一学期にあった宿泊学習では、自分の係の仕事をちゃんとできるのか、心配なことがたくさんありました。でも、班の人が一緒にやってくれたり、クラスの人と協力して、学年で盛り上げたり、楽しかったこといっぱいありました。特にキャンプファイヤーがとて楽しかったです。二期には学芸祭があります。初めで少し緊張しますが、みんな協力すること何事も楽しくなると、宿泊学習で学びました。だから、学芸祭では緊張してしまおう気持ちもあります。友達と協力して初めての学芸祭を楽しんでいきたいです。

他にも挑戦していきたいことがたくさんあります。何事にもチャレンジして、この二期を過ごしていきたいです。

二期に頑張りたいこと

僕は野球部に所属しています。一学期のはじめの頃は、試合にあまり出ていない、スコアを書いたり、声を出したりしていません。その時は、自分の役割にやりがいを感じることができませんでした。試合に出なければ意味が無い。楽しくない。と思っていました。しかし、毎試合、スコアラーを任せられるようになっていきました。スコアラーのよさも分かってきました。それは、試合全体を見ることができると、声を出さずとも、試合全体に頼りに頼られることなどです。このように頑張ることができたのは、僕にとってとても大きな事でした。

そこで、僕は部の目標でもある「全員野球」の意味をもう一度考えてみました。全員野球とは、試合に出る選手も出ない選手も、一丸となり、チーム全員で力を合わせて試合に臨むという意味です。その言葉の意味を改めて考えてみることで、自分自身だけでなく、意味を改めてチームに必要なことだと思うようになりました。このように意識が変わってからは、チームのために、今以上に声を出したり、チームのサポートをしたりと頑張っています。

二期は、僕たち二年がチームを引っ張っていく番です。僕がチームの課題のひとつとしてあげていることは、「声のかけ合い」です。その理由は、チーム全体で声を出し合えば、試合中の集中力にもつながるし、状況の整理もできるからです。その課題に向けた取り組みとして、まずは自分から積極的にチーム

二期の目標

私の二期の目標は三つあります。

一つ目は毎日の生活を充実させることです。三年生になり、テストや受験に向けて、勉強習慣をつけること、自分からいざしつをする毎日欠かさずに出すこと、自分からあらいさつをするなど、日々の生活で見直すところや改善点などを探し、直して、日々の生活を充実させていきたいと思っています。

二つ目は、自分から行動するということです。私はあまり自分から発言など、積極的に行動することがありません。だから、授業での発言や、クラスでの活動を積極的に取り組めるようにするの、清掃でも気づき清掃を積極的にできるようにしていきたいと思っています。

三つ目は、周りのことをちゃんとと言うこと。自分のことだけではなく、周りに目を向けながら行動することです。何か困っている人はいないか。周りに目を向けながら、仲間と協力して行動できるようにしていきたいです。

この三つを心がけながら三年生としての二期を過ごしていきたいです。そして自分の生活や仲間との生活大事にしながら、授業や勉強、そして学芸祭にも取り組む、最高の思い出を作りたいと思っています。

一期の反省と二期の決意

中学校最初の一学期が終わりました。

入学した最初の頃、やっぱりとても緊張しました。学校に教室、先生、クラスメイト、ほとんどが新しい環境。だからこそ、緊張と共に楽しみな、という気持ちもありました。現に、授業や生徒会、部活動、ほんの小さな「違う」と、そして今話していることにさえ生かされることがあります。

中学校での生活に慣れた頃の一組は、「チャイム着席」が課題でした。まだ慣れない学校生活の中で、時計をみていなくて準備が間に合いません。遅れたいま、ということが度々ありました。でも先生達からの話もあり、一人一人が意識するように出てきました。呼びかけをしてくれる人もたくさん出てきました。こんな風に協力して行動できるなんてすごいと思います。他にも課題がありますが、変えていけるといいなと思います。

キャンプでは、「指示なし行動を意識して、ルールの中で最大限に楽しもう」という目標があります。そして、「チャイム着席」のように変えてきたものもありません。だから、クラスで、学年で協力した、宿泊学習を成功させたいです。

一学期のことを忘れず、二期、三期も協力して、中学校での日々を過ごしていきたいです。

私にとっての一学期

私は一学期頑張ったことが二つあります。

一つ目は学習です。中でも、数学と英語に頑張った取り組みです。中でも、数学は、解き方の手順や考え方を確認しながら、ワークなどで間違えた問題を何度も解き直しました。英語では、教科書の本文を和訳して、内容を理解したり、自分で例文を作ったり表現の仕方を練習したりしました。学習のやり方を工夫することで、もっと丁寧にならなうようにしています。

二つ目は、部活動についてです。私は、美術部に所属しています。二期の学芸祭に向けてステージバックの作成や昨年がコロナウイルスによる規模の縮小のため、展示ができませんでしたが、展示が再開となり、展示に向けての作品作り等の活動をしました。今までの以上に活動に積極的に取り組むことができました。

しかし、苦手な教科は学習に取り組む時間が少なかったり、作品の制作に時間がかかりすぎてしまったりなど、二期で改善したいこともたくさんあります。もうすぐ夏休みに入ります。夏休みは一学期を振り返って、成果や課題を明らかにし、二期の準備をする期間にしたいです。二期はいろいろな学校行事などがあり、忙しいですが、一学期の頑張ったことや反省を生かして楽しく過ごせるようにしたいです。

一学期の反省

三年生として迎えた一学期はあっという間に終わり、もう夏休みに入ります。

私は一学期、吹奏楽部の活動に力を入れました。吹奏楽部では、七月十六日にコンクールがあり、結果は銅賞でした。二、三年生の四人で演奏しました。私たちが三年のソロや主旋律を、気持ちよく吹かすことができました。結果は、悔しかったですが、練習したところが成功し、思いつき吹けたので、心に残るコンクールになりました。

しかし、「反省すべき点もあります。それは、進級テスト、一学期中間テスト、期末テストで点数が下がったという点です。三年になって、一、二年の復習もしていったつもりでしたが、足りていませんでした。

二期の抱負は、三年生にとって、学芸祭の吹奏楽部のステージが、最後の部員としての活動になるので、少しでも悔いの残らないように、自分のできることをしっかりとやることです。そして、冬には受験を控えているので、復習をしっかりして、総合テストでも点数、順位を上げることができるよう、二期の過ごし方をよく考えたいと思います。

